

『本を読んだことがない 32 歳がはじめて本を読む』

かまど、みくのしん／著 大和書房 019 か

本に苦手意識があり、今まで読書をしたことがないライターが、友人の力を借りながら“読書”に挑戦します。一文一文に感動し、たまには怒り、そしてたまには涙を流し時間を掛けて物語を読んでいく姿は面白くも、物語の新たな読み方に気づかされます。「本に正しい読み方なんてない」と改めて感じさせてくれる1冊です。



『あめつちのうた』 朝倉 宏景／著 講談社 913.6 ア

高校卒業後、甲子園球場のグラウンドキーパーとなった主人公の雨宮は、東京生まれの巨人ファン。そんな彼がなぜ阪神タイガースの拠点である甲子園で働くことになったのでしょうか。個性豊かな仲間たちと共にグラウンドを整備する彼は、甲子園でプレーする全ての人が全力を出せるよう日々格闘します。彼の成長を応援したくなります。



『ふるさとって呼んでもいいですか 6歳で「移民」になった私の物語』

ナディ／著 大月書店 K334 ナ

日本に住む外国人のこと、あなたはどれくらい知っていますか。この本を書いたナディさんは、イラン系の日本人で、6歳の時にイランから日本に来ました。日本育ちの彼女は、イラン人と日本人とのアイデンティティに悩みながら、見た目や国籍を超えて、同じ社会で生きている存在であることを伝えています。



【児童室にあります】

『みたてのくみたて 見るだけでひらめくアイデアの本』

田中 達也／著 ダイヤモンド社 748 タ

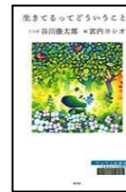
ミニチュア写真家である著者の作品を見た人は、その精密さと景色にきつと驚きます。作りは細かいのに、よく見ると使っているのは身近な材料ばかり。そんな発想はどこからくるのか、知りたくなります。あなたが何かの壁にぶつかったとき、この本を開けば全く違うアイデアが浮かんで突破口が見えてくるかもしれません。



『生きてるってどういうこと?』

谷川 俊太郎／詩 宮内 ヨシオ／絵 光文社 911.5 タ

日々を過ごす中で時に悲しかったり寂しくなったりすることもあります。そんな時にこの本を開いてみれば、谷川さんの元氣をもらえる詩に宮内さんの色鮮やかであたたかな絵がいまって、きっと心が明るくなります。



『だれのせい?』

ダビデ・カリ／さく レジーナ・ルック・トゥーンペレ／え

ヤマザキ マリ／やく green seed books E



身近に起こるあらゆるできごとは、いったいだれのせいなのでしょう。おとなになると、ものごとの責任に勇気をもって向き合わなければならないときがあります。とてもけだかいクマの兵士は、じぶんの砦をこわした相手に責任を取らせようと、剣をたずさえてつきすすみますが、原因を追っていくうちに思わぬところへたどりつきました。

【絵本室にあります】

『鋼鉄紅女』 シーラン・ジェイ・ジャオ／著 中原 尚哉／訳

早川書房 933.7 ジ

カナダ在住新進気鋭の作家が描く中華SFファンタジー。武則天、李世民など歴史人物と同名のパイロットがロボットを駆り、謎の敵「渾沌」を相手に戦います。作者はアニメ「ダーリンインザフランキス」(2018)の影響を公言し、スピード感のあるロボットアクションや男女2人組のバディとなるパイロットの交流が魅力です。



『旅ドロップ』 江國 香織／著 小学館 914.6 E

旅とは遠くへ出かけることでしょうか? 読んでいる本の中にもポケットの中のお菓子の袋にだって旅を感じることはできます。いろんな旅をしている景色を見てみてください。色とりどりのドロップのようなエッセイが詰まった1冊です。



『ほしをめざして』 ピーター・レイノルズ／文・絵

のざか えつこ／訳 岩崎書店 E

ぼくがめをさまして、旅を始めるところから物語が始まります。人生は旅のようなもの。みちるべに従ってあるいていたり、時にはそのみちるべを見失ったり。ぼくのみちるべは、いったいどこに向かっているのでしょうか。成人したあなたの「旅」が特別なものになりますように。 【絵本室にあります】



『もしもワニに襲われたら』

ジョシュア・ペイビン、デビッド・ボーゲニクト／著

梅澤 乃奈／訳 文響社 369.3 ペ

「もしも密室に閉じこめられたら」「もしも走行中の車から飛び降りなきゃならなくなったら」映画やドラマの中で一度は見たことのあるシチュエーションを、あなたならどう切り抜けますか? これからの人生を強く生き延びるために読んでほしい本です。続編の『もしも車ごと崖から落ちそうになったら』とあわせてどうぞ。



『紙屋ふじさき記念館』 ほしお さなえ／著

KADOKAWA 913.6 柿

大学生の百花は、ひょんなことから『和紙記念館』でアルバイトをすることになり、和紙の魅力にとりつかれます。和紙の奥深さを物語から学びつつ、好きなことを将来へとつなげる百花の成長を見届けてください。昨年完結し、全7巻。コロナ禍のことも描かれ、その中で百花たちの葛藤や思いは心に迫ります。



『和のふるまい言葉事典 所作まで身にしみる趣ある言い方』

榎木 良子／著 樋垣 文乃／絵 すばる舎 814 マ

言葉は時代とともに変化します。しかし、古くより唯一無二の言葉も存在します。例えば「はらはらと落涙する」とは木の葉が落ちるように、涙の雫がはらはらと落ちる様を意味します。この事典には、そんな古き良き豊かな日本語が散りばめられています。言葉は人の所作に繋がります。大人の折、素敵な言葉に出会えますように。

